



公益財団法人慈愛会と垂水市の包括連携協定のもと、今村総合病院の医師等の皆様に で協力いただき、市民の皆様の健康増進及び子育て支援啓発を目的に、4か月に1回、 皆様にお伝えしたい情報をコラム掲載いたします。

子どもの言葉の発達について

どもの成長に関して、特によくあるお 悩みが言葉の発達についてです。周り の子どもと比べて、言葉が少ない事や言葉が出 ていないと不安に感じるかもしれません。言 葉を覚え、話し始める時期には個人差があり ます。今回は、言葉の発達の順序と言葉の発 達を促すポイントをお伝えします。

生後1~2か月頃になると、「あー」や「うー」 といった発声が見られるようになります。こ のような発声のことをクーイングと呼びます。 口腔内が発達したことで出るようになる柔ら かい母音の発声です。

生後6か月頃になると、「ままま」や「ぱー」 などの喃語(なんご)が出てくるようになりま す。この頃には、喉だけではなく舌や唇を使っ て発声するようになります。

1歳頃になると、「まんま」は食べ物のこ と、「わんわん」は犬のことというように、言 葉とその意味の結びつきが分かるようになり、 意味のある一語文として話すようになります。 また、「もっと」「だっこ」というような欲求も、 言葉で伝えるようになっていきます。

1歳半頃~2歳半頃になると、「ママ だっ こ」「でんしゃ きた」など、単語を組み合わ せて、徐々に長い文章を話すようになります。 二語文で話せるようになると、周囲とコミュ ニケーションを取りやすくなり、意思を伝え るのもうまくなる時期です。

2歳半頃になると、「ママ おしごと いく の」「くるまの ごほん よんで」など、三語 文を使い始める時期です。「どうして?」「な ぜ?」という疑問も増えてきます。

3歳~5歳では、「あめがふっているから、そ とにいけない」といったように、2つ以上の述 語が組み合わさった複文を話せるようになる時 期です。代名詞や助詞などの文法を使い、日常 的な言葉のやり取りができるようになります。

言葉の発達を促すポイントとして、積極的に 子どもに話しかけ、たくさんの言葉を聞かせ るようにしましょう。やや高めの声でゆっく り抑揚をつけて話す事で、子どもにとって心 地良く安心できる印象になります。また、子 どもの話にあいづちを打つ事や言葉を考えて いる時には待ってあげる事も必要です。そし て、うまく発音できないことや言い間違える こともあります。正しく覚えてほしいからと 間違えを指摘し続けていると、子どもは言葉 を話すのが嫌になってしまいます。多少の言 い間違えはあまり気にせず、子どもとの会話 を楽しむことを優先しましょう。

1歳半、3歳児健診では、言葉の発達の チェックが行われます。垂水市言語相談も定 期的に実施しています。言葉が出てくるよう な声かけや関わり方をお伝えしますので、垂 水市役所にお気軽にご相談ください。

今村総合病院言語聴覚士 若松 藍

「コミュニケーションの問題」 (失語症、構音障害、高次脳機能 障害等)や「飲み込みの問題」(嚥 下障害) に対して評価と練習を しています。豊かな生活ができ るよう支援します。



過保健課健康増進・元気プロジェクト係 ☎ 内線 138

9 | Tarumizu City Public Relations